

平成22年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	21	学校名	茨城県立緑岡高等学校				課 程	全日制				学校長名	大月光司			
教頭名	額賀俊光								事務室長名	藤田正一						
教職員数	教諭	49	養護教諭	1	常勤講師等	3	非常勤講師	6	実習教諭, 実習講師, 実習助手	4	事務職員	4	技術職員等	2	計	72
生徒数	小学科	1年		2年		3年		合計		合計クラス数						
		男	女	男	女	男	女	男	女							
	普通,理数科	199	81							199	81	7				
	普通科			162	78	171	64	333	142	12						
理数科			31	8	30	8	61	16	2							

2 目指す学校像

文武不岐の伝統精神のもと、高い知性とたくましい心を持つ生徒を育成し、一人一人の希望を実現するとともに、社会に貢献する人材を輩出することにより地域社会から支持・信頼される学校を目指す。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・授業振替を徹底するよう努める等、「授業第一」の実践が図られている。 ・公開授業週間を前後期2度実施している。 ・「家庭学習の記録」を作成させ、時間の効率的な使用を指導している。 ・学習室を平日は19時、土曜日（12月～3月は土・日曜日）は17時まで開放し、自学自習のための利用を可能としている。 ・授業開始前・放課後、土曜日、長期休業中の課外授業等を実施し、基礎学力と発展的学習の強化に努めている。特に、夏季課外は全学年で全員参加の課外授業を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業振替率は95.4%（前年比+0.6%）、100%を目指す。 ・学校行事精選・短縮授業削減等、さらなる授業時間の確保に努める。 ・公開授業を積極的に実施し、教師相互の研修に努める。 ・自宅学習時間に二極化が見られる。個々の生徒の状況をふまえた指導を行っていく。 ・環境の整った学校施設での学習を勧め、利用生徒数の増加を図る。 ・希望者課外について、参加生徒数の増加と出席率の向上を図る。
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科、理数科の特色を生かした教育課程の編成に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一括募集のメリットを生かせるよう工夫する。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・現役国公立大学合格者数79名、現役進学率59%であった。 ・大学教官による模擬授業、大学見学、理数科校外学習、進路講演会、キャリア教育講演会、学問観・職業観育成セミナー等により進路意識や学習意識を高めることができた。 ・生徒実態調査を年2回実施分析し、学習等の意識や状況を把握して指導に生かした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合格者、進学率とも減少した。生徒の実力を見極めた進路指導に基づき、国立難関大学の合格者を増加・維持させていくことが必要である。 ・引き続き実施し、進路選択に役立てる。また、積極的な大学訪問をすすめていく。 ・結果のフィードバックや進路に係る情報を定期的に発信し、一段上の進路実現を図る。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーアップ週間を設定し、遅刻・服装指導を実施した。各学年においても、定期的に服装指導を実施し規律遵守を図った。 ・通学路における自転車の安全運転指導を実施し、施錠の徹底等防犯意識の高揚を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時の交通事故防止、服装指導等、継続的に教員の共通理解を持って指導を進める。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動への参加率は、80%を超え、活動も活発である。 ・緑高祭等の学校行事は生徒主体の活動で実施した。 ・緑歩会においては安全なコースで実施した。 ・生徒会活動の活性化を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動と勉強との時間のバランスを図る。 ・緑高祭の全学年参加に対する意識の高揚と質の向上を目指す。 ・生徒会本部役員の出候補者数の増加と、任期の継続的な活動が必要である。
事 務	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の効果的執行と条例規則に則った適正な事務処理を行っている。 ・施設、設備を適切に管理し、エコ活動を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事故やミスのないチェック体制を維持し、効率的な予算執行をする。 ・安全面のチェックとともに、県有財産の維持・管理を徹底する。

4 中期的目標

生徒一人一人の自己実現を支援する教育環境を構築する

- (1) 自己の適性に基づく進路選択をサポートするハイ・レベル授業を展開する。
- (2) 医学・難関理工系大学進学コースを核に、One-Rank up した進路指導を実現する。
- (3) 生徒の主体的活動を奨励し「生きる力」を育む。
- (4) 倫理観を培い、規律を重んずる責任ある生活態度を育む。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
・授業第一の教育活動と「自ら学ぶ」学習習慣の確立	①常に授業の質的向上に努め、授業第一主義を徹底する。 ②予習・復習を励行させ、自学自習の習慣を確立するための支援を行う。 ③苦手教科克服のための補習を行う一方で、生徒の個々に応じたきめ細かな指導を行う。
・進路面談の強化と進学実績の向上	④現役での国公立大学合格者 100 名，難関私立大学合格者 30 名，現役進学率 70 %を達成する。 ⑤キャリア教育を継続的に実施し、「学ぶ目的」を意識した教育課程の編成に努める。 ⑥各生徒の情報を共有し，教員が互いに協調して学習・進路指導に当たる。
・規律遵守の意識醸成	⑦教職員の共通理解により規律ある学校生活・環境を確立する。 ⑧「礼儀，校則，公共心」等を尊重する生徒の育成を図る。
・特別活動や学校行事への参加意識の高揚	⑨生徒会活動，学校行事，部活動などへの積極的な参加を促し自己管理能力を高める。 ⑩全学年参加・6月実施の「緑高祭」の成功を支援する。 ⑪学校行事の内容や実施時期の検討を行う。
・適正な事務事業の実行	⑫予算の早期執行と適正な処理を行う。
・新規施策の企画と実現	⑬いばらき版サイエンス・ハイ・スクールにおける課題研究を充実する（理数科）。 ⑭平成 23 年度の 50 周年記念行事計画の具体化を図る。 ⑮「一括募集・新コース」に関しての中学校への説明と理解を求める。